

県民提案型協働創出事業 成果報告書

実施団体名	特定非営利活動法人あきた子どもネット		
取組事業名	青少年に対する県内の魅力と将来につなげるアプローチ事業		
採択年度	令和5年度	補助金額 (3年間)	2,463,363円
事業概要			
<p>当事業は、青少年たちに秋田県の魅力を伝え、体感してもらい、それらを彼らが主体的に発信し、将来的な秋田県との関わり方を考えるキッカケを掴んでもらうことを目的とする。</p> <p>高校生に対するアンケートにおいて、他県の人に薦めたい秋田県の魅力としてもっとも高い割合を占めていたのが「自然環境」であり、次点で「伝統芸能・祭り・イベント」、「人の良さ」と続く。「なし」と回答したのは全体の1割にも満たない、という結果である。</p> <p>引用：「若年者の県内定着・回帰等に関する意識調査」報告書(最終版) p.41(令和4年1月 秋田県)</p> <p>しかしながら、このような魅力を感じつつも、若者が県外へ流出したり、秋田との関係が薄れたりしてしまう原因として、「それらの魅力と自分の将来との関係性が見いだせない」ところにあると考える。</p> <p>また、同様のアンケートより、「将来秋田に住みたいと思わない」と回答した理由として「希望する学部・企業の有無」というのがもっとも高い割合を占めている。</p> <p>引用：「若年者の県内定着・回帰等に関する意識調査」報告書(最終版) p.27(令和4年1月 秋田県)</p> <p>そして、「将来も秋田に住みたいと思う」と回答した理由としてもっとも高い割合だったのは「家族(実家)のそばに住みたいから」がもっとも高い割合であった。</p> <p>引用：「若年者の県内定着・回帰等に関する意識調査」報告書(最終版) p.23(令和4年1月 秋田県)</p> <p>これらの内容を踏まえると、自然や文化といった秋田県の魅力を伝え、体感してもらうことは重要であるが、そのみでは県外進学後も秋田県に関わり続ける・将来的に県内に定住する若者を増やすことは難しいと考える。</p> <p>故に、青少年たちが秋田県に関わり続けるようにするためには、秋田に現存する魅力と自らの将来を結び付けられるようなきっかけづくりが必要であると考えます。</p> <p>秋田の魅力と自分の夢や得意分野、将来との結びつき、また魅力に携わっている人の人物像や仕事内容などを主体的に感じることで、将来的に秋田へ関わろうとする意欲が芽生えてくると考える。</p> <p>青少年が将来的に秋田県と関わり続けたいという意識を作り出すためには、</p> <p>I 秋田県で魅力を生み出す人々との触れ合い、関係づくり</p> <p>II 現代の青少年の特性・能力を活かした活動とネットワークづくり</p> <p>をセットで行う必要があると考える。</p>			

I 秋田県で魅力を生み出す人々との触れ合い、関係づくり

青少年が秋田県に将来的に携わることを考えられるような魅力の伝え方として、その魅力に携わる現場で活躍している人、働いている人たちとの触れ合いやつながりを作ることが重要だと考える。

そうすることで、自分が将来秋田県で働くイメージや「将来地元に貢献したい」という意思を持つ青少年のモチベーションを高めることができると考える。

また、「将来〇〇という職に就きたい」、「将来〇〇のジャンルで活動していきたい」という具体的な構想を持っている青少年に対しても、自分の夢や願望を通じて、どのように秋田県で働けるか、活動できるか、というイメージを作ることができると考える

そして、現場に携わっている人々の熱量が伝わることで、より「秋田の魅力、人々に関わりたい」という気持ちを作り出していくことができると考える。

II 現代の青少年の特性・能力を活かした活動とネットワークづくり

I で経験したり、得られたりした知識や考えを参加者の希望やスキル等に応じた形で発信していく。

I の活動の先に「発信」という目的を持つことで、主体的に魅力や考えを整理する必要があるが出てくる。それにより、興味や関心を更に深めることができると考える。

このツール内には、青少年のほかに、活動で携わった方々や事業運営チームを加え、持続的な情報アプローチや交流を行っていく事で、活動が一過性のものではなくなる様にする働きかけを行う。

■全体統括

NPO 法人あきた子どもネット 桐谷

■受益者(対象者)

主に小学3年～中学2年生

■提携先例

●秋田県内の魅力を発信、自然環境を青少年育成に活用している団体

例) 県、各市町村の観光課、NPO の観光協会、NPO 法人ベコア일랜드サミット・NPO 法人はちろうプロジェクト

●秋田県内の青少年育成支援を行っている団体

NPO 法人 秋田育さぼドリームエンジェル 秋田中央里親会など

■講師陣

・合同会社スタジオ VK 代表 金雄大

・あきやま企画代表 秋山卓登

・ゼロファクトリー(株) 播磨谷 直

- ・フリーアナウンサー 柳本雪絵 氏

■実施場所

- ・秋田県内の観光地
- ・秋田県内の文化遺産
- ・秋田県名産品の生産地
- ・上記関係者・関連施設への訪問

■必要経費

- ・参加者募集に関わる印刷、広告費
- ・各活動実施場所までの移動交通費
- ・発信活動用の機材費
- ・発信成果物の印刷費
- ・各取材先への謝礼
- ・専門家講師への謝礼

3 実施スケジュール

2023年度は

2023 10/10

打ち合わせ資料等の作成 質問等講師陣よりヒアリング 取り纏め

10/11

県担当者様との打ち合わせ協働についての確認 質疑応答

団体側 桐谷 神長 秋山 愛叶

県担当者様 安藤様 佐藤様 遊学舎 渡部様

10/16

会議ツールにて、講師陣と企画検討 及びチラシ素案作成

10/24

企画策定会議 WEB 会議にて講師陣と開催 企画場所等の検討及び選定・内容の取り纏め
協働先の選定 確定案 4 案 検討 2 案にまとめる。

11/9

チラシベース(たたき台)の製作開始 協働先とのアポイント 企画内容の提案

11/10

計画策定会議 WEB にて開催 協働先の調整により 4 案に決定

協働先へ県の協力いただく旨 依頼文の作成の協力依頼。

協力先への依頼内容の検討と策定

11/27

会議ツールにて協力先情報等収集してのチラシ内容の取り纏め 加筆修正

11/9

陽気な母さんの店株式会社 訪問・相談

12/11

一般社団法人白神コミュニケーションズ事務所訪問・打合せ

12/13
 チラシ完成版制作開始 完成に向け詳細情報等入れ込み WEB 会議にて協働計画の詳細策定
 4 案の企画についての詳細状況等取り纏め 協力先との詳細内容の報告等

12/17
 チラシ修正作業 企画内容の追加 協力先の経費見積依頼 資料作成

12/18
 チラシ修正作業 企画追加事項の取り纏め 依頼書の修正

12/20
 陽気な母さんの店株式会社 訪問・ミーティング

2024 1/10
 児童会館にて集合会議 現在まで確定している内容確認 各自の行動把握
 取材内容 企画内容 協力依頼文の取り纏め 修正 協力先の状況日程確認
 広報 番組制作等の依頼先選定 来期予算配分検討

1/16
 チラシ修正作業 企画資料等の修正 協力先の状況確認 日程調整

1/20～21
 ゲストハウス あわじ商店へ訪問

1/22 日
 チラシ修正作業 協力先の状況確認 日程調整

2/9
 陽気な母さんの店株式会社 zoom ミーティング

2/13
 会議前の現在まで進んでいる状況の確認 資料の取り纏め
 協力先状況確認 チラシ修正反映 会議資料の作成。

2/14
 近隣飲食店にて集合会議
 進行状況説明 各進行内容の把握 今後の流れ等や対応について共有
 資料内容の確認修正等の確認 協力先の状況とデータ等収集
 来期企画についての確認等

3/6
 各協力施設への連絡と内容の依頼 その他打ち合わせ日程調整
 講師陣への状況等の報告 チラシ修正作業

3/7
 各協力施設への連絡と内容の依頼 その他打ち合わせ日程調整 チラシ修正作業

3/8
 報告書等の作成 講師陣からの必要書類の回収 確認 ポスター等の制作

3/13
 報告書等の取り纏め 講師陣への実施報告等情報の取り纏め チラシ及びポスターの修正作業。

2024年度は下記の通り

4/1～30 チラシ制作等及び事業打ち合わせ

5/1～30 チラシ配布準備及び配布作業 6 万部各小・中学校配布
 (5・6・7) 能代大館方面の協力団体との打ち合わせ。男鹿水族館とのうちあわせ

6/9
 ブナの木塾説明会開催 対面&ZOOM にて説明対応
 対面 1 名 ZOOM 3 名

6/29 体験会準備等

7/5 参加者獲得のための ZOOM 会議 県担当者様との会議

7/6 体験会実施するが、参加者集まらず企画会議行う。

7/8 防災学習館 ロケハン

8/1～8/27 中間報告書作成期間

8/10	海洋防災コース合同企画 防災学習館の事前学習と 男鹿水族館の事前学習会 参加 3 名 協力団体 1 名
8/17	男鹿水族館 GAO 訪問 参加者 5 名 協力団体 3 名
8/26	打ち合わせ企画検討
9/6	県民中間報告会
10/7	県庁打ち合わせ
10/12	海洋コース八郎潟 事前学習及び ワークショップ 参加 5 名 協力団体 4 名
10/13	防災コース本荘 防災学習館にて体験授業 参加 2 名
11/4	海洋コース八郎潟 湖水調査ワークショップ 参加 4 名 協力団体 7 名 他参加者 20 名
12/23	県庁にて協議
1/19	海洋コース講座開催 秋田の河川の授業 参加 3 名
2/23	まとめ授業開催 3 月 2 日の報告会に対する説明等や当日のスケジュール確認 活動の振り返り等
3/2	ブナの木塾報告会開催 秋田県児童会館劇場にて開催 参加 4 名 他協力団体との一年の活動の振り返り作業
2025年は下記の表のとおり	

笑顔を育む、秋田の魅力を発見

あきたブナの木塾



2025 イベントスケジュール

動画づくり体験

生涯学習センター各研修室

時間内で一人当たり30分程度から興味度により時間調整できます。質問対応も可能

6月	27日	金	15:00~17:00 第3研修室
7月	25日	金	15:00~17:00 第5研修室
8月	22日	金	15:00~17:00 第4研修室
9月	26日	金	15:00~17:00 第3研修室
10月	24日	金	15:00~17:00 第3
11月	21日	金	15:00~17:00 各研修室
12月	26日	金	15:00~17:00 各研修室

お出かけブナの木塾

各場所現地集合

現地集合時間は開催時間の10分前程度の余裕をもってご参加がおススメ
※開催場所が変更になる場合は事前にご連絡いたします。

7月	20日	日	13:00~15:00	はちプロ協働企画 八郎湖再生カードゲーム体験 場所：生涯学習センター第1研修室
8月	31日	日	13:00~15:00	はちプロ協働企画 八郎湖を知ってみよう！ 場所：生涯学習センター5階和室
9月	28日	日	9:30~13:00	はちプロ協働企画 八郎湖見学&生き物調査 場所：八郎湖湖岸
10月	19日	日	13:00~15:00 ※参加料1,000円 かかります	秋田県漆器工業協同組合協働企画 川連漆器蒔絵体験講座 場所：川連漆器伝統工芸館
11月	16日	日	13:00~15:00	県外人への突撃インタビュー体験 場所：遊学舎第1研修室
1月	24~31日	土 ~ 土	11:00~16:00	1年間の活動展示会開催 場所：文化創造館

※会場は変更になる場合があります。詳細はサイトにて確認ください。

・両方参加型になります。・ご家族での参加もできます

詳細・ご予約
お問い合わせは



・「あきたブナの木塾」で検索
・右の二次元コードを読み取り
お気軽にお問い合わせください！



litlink



YOUTUBE

あきたブナの木塾

<https://lit.link/akitabu>

4 この事業で見込まれる成果

秋田への愛着と関心の醸成

- ・ 自然や文化を体感し、魅力を発信することで、青少年が秋田に対してポジティブな感情を持つようになる。

将来のキャリアと秋田の接点を発見

- ・ 人々との交流を通じて、「秋田で生きること」への具体的なイメージを持てるようになる。
- ・ 自分の夢や得意分野と秋田の地域資源との接点を見つけるきっかけになる。

主体的な発信力・表現力の向上

- ・ 自らの言葉で秋田の魅力を発信するプロセスを通じて、情報整理力や表現力などのスキルが育まれる。

地域との持続的なネットワーク形成

- ・ 参加者、講師、地域団体とのつながりが継続的な関係性を生み、将来的なUターン・Iターンの土壌となる。

5 主な役割分担と協働

地域づくり推進課様： 書類管理 進捗チェック

地元講師様： 取材協力 活動内容選定 体験活動実行部隊

八郎プロジェクト様 企画実行 体験活動

男鹿水族館様 企画実行 体験活動

防災学習館様 企画実行 体験活動

陽気な母さんの店様 企画検討

白神コミュニケーションズ様 企画検討

あわじ商店様 企画検討

あきた子どもネット： 統括 事務局 準備連絡等

6 この事業の今後の課題・展開等

- ・ 継続性の確保

一過性の体験で終わらせず、定期的なフォローや経験者たちのネットワークの構築として SNS やオンラインコミュニティを活用して、参加者同士や地域とのつながりを維持する仕組みづくりを行うことで継続性を確保するまたそれに対応できる予算の確保が必須となる。

- ・ 多様な進路との接続

「秋田に希望する進学先や就職先がない」という課題に対して、地元企業や大学との連携を強化し、進路の選択肢を広げる必要がある、地元企業のインターンシップや職業体験の導入も検討できる内容である。

- ・ 発信力の質と広がり

発信内容の質を高めるためのメディアリテラシー教育や、プロによるフィードバック体制の整備を継続し発信先を県外や海外にも広げることで、秋田の魅力をより多くの人に届けられるようになる。

■担当課室のコメント（次世代・女性活躍支援課）

本事業は、本県の最重要課題である人口減少の克服に向け、若年層の県内定着・回帰を促すことを目的としています。地域の魅力や働く人々の姿に触れ、自身の将来像と重ね合わせる主体的な体験を通じて、秋田への愛着を育むことが狙いとなっています。

物理的な制約から参加人数には限りがありましたが、本事業の核心は、参加者が得た感動を自らの手法で発信することを主眼としている点にあります。SNS等のオンラインツールに親しんでいる世代への高い拡散力と先進性を備えていると考えています。

実績として参加人数こそ限定的でしたが、少人数ゆえに密度の高い体験を提供することができ、参加者の心に深く刻まれたと思います。その一人ひとりが「秋田の伝道師」として、自身の言葉で同世代にその魅力を伝える役割を担っていただくことを強く期待しています。